

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和2年12月1日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第1研修室 ○対象：幼児

《11月のおはなし会で使った本》

『くぬぎちゃんのくるんくるんぼうし』（紙芝居）すとうあさえ/脚本 童心社 2016

『りんごがドスン』（大型絵本）多田ヒロシ/作 文研出版 2019

『ぴょーん』（大型絵本）まつおか/たつひで/作・絵 ポプラ社 2004

『となりのたぬき』（大型絵本）せな/けいこ/作・絵 鈴木出版 2005

当館でのおはなし会のプログラムと関連する絵本を、ホームページ上でも紹介します。おうちでもおはなし会をどうぞ。紹介した本は、「あかちゃん絵本」コーナーで展示しています。

http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/ohanashikai_web_202011

★「第3回新刊児童書閲覧会」

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○期間：12月9日（水）～12月13日（日） 9：00～17：00

○定員：一人1時間、各時間帯10名程度（要申込み） ○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等

○申込方法：12月1日（火）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★「子どもの読書」関係ボランティア団体の調査を実施します

◎詳細はHPで御確認ください。

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/volunteergroupsurvey2020>

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『はんぶんこ』 多田ヒロシ/作 こぐま社 2020.10 ¥1100

美味しそうないちごのケーキをパンダさんが半分こ。上にのったいちごもきっちり半分こ。ブタさんが大きなスイカをはんぶんこ、じゃなくてはんぶんこ。おいしく食べた後は、すいかのぼうしとお面のできあがり。いろいろな動物たちが、食べ物半分こ。ダジャレが飛び出したり、うまく半分こにならなくて泣いちゃったり…。わけっこして一緒に食べることの楽しさが伝わってくる絵本。

＜絵本－3, 4歳から＞

『サンドイッチにはさまれたいやつよといで』 岡田よしとか/著 佼成出版社 2020.9 ¥1300

おにぎりの具になりたい食べ物たち。しかしすでに具が入っているとおにぎりたちに断られ、パンはどうかとすすめられる。そこで食べ物たちは、閉店後のパン屋にしのびこむ。レタスとソーセージ、ポテトサラダ、焼きそばに目玉焼きなどが、売れ残った食パンにはさまれサンドイッチになったり、ハンバーグがシシズに挟まれハンバーガーになったり。関西弁の会話し楽しいユニークな絵本。

＜絵本－5, 6歳から＞

『ママ、どっちがすき?』 織田りねん/作 中田いくみ/絵 パインターナショナル 2020.9 ¥1350

ジョーとキコがまた兄弟げんか。台所にかけてくる二人を諭すママに、ジョーが「ねえママ、ぼくとキコ、どっちがすき?」と聞くと、ジョーはりんごでキコはみかんのようなものだから選べない、兄弟でも、性格も好みも得意も不得意も違う。そんな二人それぞれに味があるから楽しいんだ、と話すママ。優しく真剣に子どもたちの質問に答える様子に心温まる。オチも楽しい絵本。

『アルフィー』 ティラ・ヒーダー/作 石津ちひろ/訳 絵本塾出版 2020.9 ¥1500

ニアが、同じ年のカメのアルフィーと出会ったのは、6歳の誕生日。ニアは大好きなアルフィーにダンスを教えたり、プレゼントをあげたりした。でもなかなか反応してもらえなくて、ニアはだんだんアルフィーのことを考えなくなっていく。そして7歳の誕生日の朝、アルフィーは姿を消してしまい…。明るくて活発な女の子ニアと、のんびりやのカメ・アルフィーのほのぼの絵本。

＜絵本－小学校低学年から＞

『がらあむし』 館野鴻/作・絵 佼成社 2020.9 ¥2000

くずれたがけの岩と石でできた森の地面。そのずっと奥底で、黒い卵からガロアムシの赤ちゃんが生まれた。ガロアムシは小さな生き物を次から次へと食べ続け、大きくなる。そして何年かが過ぎ、ガロアムシは、おとなのメスになり…。1914年に栃木県日光市でガロアさんに発見された「ガロアムシ」。巻末には、「ガロアムシについて」と「この本に登場する生き物たち」を掲載。

『トックパをたべよう インドのごちそうスープ』 プラバ・ラム/ぶん シーラ・ブレイット/ぶん シルバ・ラナデ/え あまがいのひろみ/やく イマジネーション・プラス 2020.9 ¥1500

「トックパ」はインドのごちそうスープ。今日の晩ごはんはトックパ。ツェリンは、おばあちゃんのトックパが大好き。うれしくて、帰り道にみんなを晩ごはんに誘う。ところがおばあちゃんがトックパを作り始めたときたんと停電。目の不自由なツェリンが、音とにおいと、味と手触りを頼りにトックパを作り始める。インドのラダックの人々の自由で豊かな文化に触れることのできる一冊。

＜絵本－小学校中学年から＞

『しあわせなときの地図』 フラン・ヌニョ/文 ズザンナ・セレイ/絵 宇野和美/訳 ほるぷ出版 2020.10 ¥1400

ソエは、生まれ育った大好きな町を逃れなければならなくなった。町を離れる前の晩、机の上に町の地図を広げ、楽しいことがあった場

所に印をつけてみようと思いつく。幸せな思い出がまった自分の家、学校の校舎、図書館、公園、お気に入りの映画館。そんな思い出の場所を赤えんぴつで結んでいくと…。戦争のためにささやかな幸せを失ってしまう少女の切ない気持ちが描かれた絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『とどけ、サルハシ!』 葦原かも/作 石川えりこ/絵 小峰書店 2020.9 ¥1100

図工の時間に、隣のさやかな画用紙こうつかり絵の具をつけてしまった小2のりょう。みんなに責められ教室を飛び出し鉄棒こぶら下がっていると、テナガザルが現れ「サルハシ」が出てくる指輪をくれた。サルハシとはサルのはし。サルハシをかけると、相手に気持ちが伝わるという。サルハシの力を借りて、さやかに謝ろうとするりょうだったが…。不器用なりょうを応援したくなるお話。

『かしくいうさぎのローズパッド』 ルドウィッヒ・ペーメルマンズ/ぶん・え 小宮由/やく 大日本図書 2020.9 ¥1400

「うさぎはおくびょうですぐにこにげる」と本に書いてあったのを見て、腹が立ったうさぎのローズパッド。強いところを見せてやろうと、海のくじらに綱引きの勝負を挑む。同時にジャングルのぞうにも同じように綱引きの勝負をけしかけ、両端を2匹に持たせたローズパッドだったが…。絵本から一人読みに移行する子どもたちのための幼年童話こころのほんばこシリーズ最新作。

<読み物—小学校中学年から>

『ココロ屋 つむぎのなやみ』 梨屋アリエ/作 菅野由貴子/絵 文研出版 2020.9 ¥1300

ちかこに意地悪をされて猛烈に腹の立った小3のつむぎ。ひろきが言っていた『ココロ屋』が本当にあるのなら助けて! そう願っていると現れた『ココロ屋』。早速『自分のココロ』と『意地悪なココロ』を入れ替える。次に『ダメなココロ』『空っぽなココロ』と替えていったつむぎ。果たしてじっくりくるココロは見つかるのか? ひろきが主人公の2011年発刊の『ココロ屋』に続く作品。

『おとうさんのかお』 岩瀬成子/作 いざわ直子/絵 佼成出版社 2020.9 ¥1300

お兄ちゃんとけんかして、単身赴任のお父さんのマンションに山口県からやってきた小3のわたし。春休みなので一週間くらいはいるつもり。でもお父さんは口うるさくて、なんだかうんざり。でもマンションの隣の部屋の雪ちゃんとうだちになり、会って話をするのがだんだん楽しくなってきた。拾った石に顔を描いて名前をつけ、話しかけてる子だけ。山口県在住の作者による最新作。

<読み物—小学校高学年から>

『おじいちゃんとの最後の旅』 ウルフ・スタルク/作 キティ・クローザー/絵 菱木晃子/訳 徳間書店 2020.9 ¥1700

口が悪くて怒りっぽくてやたら大きな声を出す面倒くさいおじいちゃんが、脚を折って入院した。おじいちゃんは、病院から脱出し、おばあちゃんと過ごした島の家に一泊泊まりで出かける計画を、孫のウルフと決行することに。大好きなおじいちゃんのために、嘘をつき危険を冒しても実行するウルフだったが…。自分の祖父の思い出を盛り込んだ、スウェーデン作家の最後の作品。

<読み物—中学生から>

『ハジメテヒラク』 こまつあやこ/著 講談社 2020.8 ¥1400

小5の時、仲間外れになっていたわたしを救ってくれたのは、競馬の実況アナウンサーを目指している大学生のいとこ・早月ちゃん。その時教えてもらった脳内実況がわたしの趣味となり、この春、入学した私立中学でも、友達や先生、成り行きで入部した生け花部のメンバーなどを面白おかしく脳内実況。しかし、文化祭で本当に実況をすることになり…。少女の成長をテンポよく描く。

『サード・プレイス』 ささきあり/作 酒井以/絵 フレーベル館 2020.9 ¥1400

家や学校では自分らしくいられない中高生が自由に過ごし、やりたいことに挑戦できる第3の居場所「サブリガーデン」。SNSの中の自分に逃避していた瑞希、規格外品とレッテルを貼られ反発的になっていた大輝、陽菜、亮。ここでそれぞれのやり方で過ごし、大学生のボランティアスタッフなど様々な人と会うことで変わっていった4人の物語を、4つの短編連作として綴る。

『イワンの馬鹿』 レフ・トルストイ/作 ハンス・フィッシャー/絵 小宮由/訳 KTC中央出版 2020.10 ¥1600

悪魔たちの妨害もものともせず、非暴力と自給自足の生活で平和な国を実現する「馬鹿のイワン」を描いた、ロシアの文豪トルストイの民話の新訳。訳者は、トルストイ翻訳家として知られる北御門二郎の孫。現代の子供にふさわしい訳に、絵本作家ハンス・フィッシャーの挿絵が添えられ、装丁に題箋装飾を施したおしゃれな一冊。巻末には解題・訳者あとがき、作品に関する文献を収録。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『動物たちが教えてくれる海の中の暮らし』 佐藤克文/文 木内達朗/絵 福音館書店 2020.10 ¥1300

広くて深い海を自由気ままに泳ぎまわっている動物たち。どのように過ごしているかを知りたい研究者たちは、動物に記録計を取りつけて海中での行動を調べるバイオロギングという手法を考案した。それによって分かった、アザラシ親子、キングペンギン、マッコウクジラの海の中のくらしぶりを紹介する。すべての漢字にルビ付き。たくさんのふしぎ傑作集。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『教えて!感染症 「かぜ」から「新型コロナ」まで』 土井洋平/監修 小峰書店 2020.10 ¥2800

様々な病気のうち、目に見えない微生物が原因で起こる病気が感染症。新型コロナウイルスによる感染症が私たちの生活を大きく脅かしている今、知っておきたい感染症の仕組みや広がり方、その予防や治療についての正しい知識を解説する。情報は2020年9月時点のもの。『1巻感染症ってなんだろう?、2巻感染症と人類のたたかい、3巻感染症の影響と予防』の全3巻。

<ノンフィクション—中学生から>

『未来の自分に出会える古書店』 齋藤孝/著 文藝春秋 2020.8 ¥1450

近くにオープンした古書店「人生堂」。そこに出入りするのには、Jリーガーを目指す中2のメッシくんと、美術部とバドミントン部を掛け持ちする、絵を描くのが大好きな高2のゴッホくん兄弟。進路や友だち関係、恋や死など、人生の問題について、店主の言葉や勧められた本を通して考え、成長する姿を小説スタイルで描く。『君たちはどう生きるか』(吉野源三郎)の現代版とも言える。

<研究書>

『主体的な学びを支える学校図書館 小学校・中学校の授業サポート事例から』 和田幸子/著 少年写真新聞社 2020.8 ¥2000

学校司書として長年、袖ヶ浦市小・中学校で勤務し、こども読書推進賞奨励賞などを受賞した著者が、「主体的で深い学び」につながる、小・中学校での学校図書館活用事例を多数紹介する。オリエンテーション等での基本的な図書館活用スキルの伝え方、各教科での具体的な支援の方法、博物館・公共図書館等との連携など、すぐ実践に活かせる。コピーして使えるワークシート付き。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。